

2008/09/01 (mon)

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「輸入食品の監視増員」
- 2) 「初の3R 検定実施」
- 3) 「秋田市 エコペレット」
- 4) 「噛んで食べる大切さ” かみかみセンサー発売” 」

1) 「輸入食品の監視増員」

厚生労働省が27日、新型インフルエンザの侵入防止や、輸入食品の安全性を確保する監視・検査等の水際対策を強化するため、全国の検疫所の担当職員を計108人増員する等とした2009年度の定員要求を決めた。これは、前年度の増員要求の倍増となる。

輸入食品監視業務は、輸出国における検査、輸入時のモニタリング検査、輸入に先立ち食品等の製法、加工方法等の資料に基づいた指導、先行サンプルの検査、その合否の判定等がある。中国製冷凍ギョーザ中毒事件などを受けて、これらの業務を強化することが図られている。

このほか、近い将来起こると言われている新型インフルエンザなどの国際感染症パンデミックの対策を担う官房審議官を1名置く。

現在、全国には108箇所の検疫所があるが、今回の増員を受けて、国内に輸入される全ての製品がこれまでより安全に消費者に渡ることを願う。

2) 「初の3R 検定実施」

リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）、の3Rが正しく理解されているかどうか、来年の1月にNPOの主催で3R検定が行われる。リサイクルなど環境問題でいろいろな情報が飛び交っている中、正しい知識を身につけてほしいという願いから実施することになり、受付は9月15日から11月30日だ。受験会場は東京と関西の3大学で、受験料は5250円。

エコ意識の高まりの中で、この検定に挑戦することにより市民のさらなる環境への配慮が期待される。

3) 「秋田市 エコペレット」

地球温暖化や原油高騰などを背景に代替燃料への関心が高まる中、風力発電などを手掛ける秋田市の（株）エコ・マテリアルが、稲わらやもみ殻、スギの葉、ススキなどの植物系原料から固形燃料「ペレット」を製造する技術を開発した。廃材や間伐材などを使う木質ペレッ

トはすでに実用化され普及し始めているが、植物を原料にしたものはほとんど例がないという。同社は7月下旬に製造方法を特許申請した。

木や植物は光合成で二酸化炭素（CO₂）を取り込むため、燃やしてもCO₂を増やさないといふことが燃料としての大きな強みだ。

同社が開発したのは、より低温で植物系原料を固形化する技術。外見は木質ペレットとほとんど同じで、ペレット製造機は電気で加熱し成形する仕組みのため低温なほど電気代を抑え製造コストを削減できる。また、低温成形のため鉄板を薄くするなど製造機の価格低減も可能という。

原料は農村部や中山間地に豊富にあるものばかりで、集落単位などで製造プラントを導入し必要分のペレットを生産する「燃料の地産地消」をモデル地域を募り、実証的な試験に入る予定。

全国で様々な形態の地産地消の取り組みが行われており、互いに良い地域づくりの刺激となりそうだ。

4) 「噛んで食べる大切さ” かみかみセンサー発売” 」

よく噛んで食べる習慣の大切さを子供に教えようと長野県の学校の先生が考案した教材が商品化された。食事中に咀嚼回数を表示する装置で、名古屋市の衛生機器メーカーが「かみかみセンサー」の名称で販売を開始。健全な食生活を学習する「食育」への関心の高まりを背景に、教育機関や歯科医を中心に需要を見込んでいる。

1990年頃に学校食事研究会が提唱した「ひみこ（卑弥呼）のは（歯）がいーぜ※」という標語を見直し、食べやすい現代食があごの発達に及ぼす影響を懸念して今回の発売につながった。

装置はあご先からのど元に約2センチの場所にスイッチを固定。咀嚼時のあごの上下運動を伝え、カウンターに回数を表示させる方式だ。咀嚼回数計測装置は、数万円するものがあるが、学校納入価格を9975円に抑え拡販を狙う。

この装置を使って給食の食べ方を調査。肥満児童の咀嚼回数は、全体平均と変わらなかったが、食事時間が平均3分ほど早く、「早食い」の傾向がみられた。

神奈川歯科大の小野塚実教授は「味覚や嗅覚などの五感のすべてを駆動させることができる人体最大の感覚発動器が口。だから、口を働かせれば脳が活発になり口がダメになると脳の活動が低下する」と指摘。ただし、「やたらと固いものを食べればいいというわけではない。柔らかいものでもちゃんと、咀嚼して食べれば体にはいい。特に高齢者においては、コミュニケーションを取りながら食事することの方が大切」と注意を促している。

※「ひ」まん（肥満）防止、「み」かく（味覚）の発達、「こ」とば（言葉）がはっきり、「の」う（脳）が発達、「は」（歯）の病気予防、「が」ん（癌）予防、「い」（胃）の働きをよくする、「ぜ」んりょく（全力）投球の頭文字を取ったもの。

大人になり、あごの弱さ・かみ合わせの悪さが原因で良い睡眠がとれなかったり、肩こりになったりと、体に支障をきたしていることを実感する。後になればなるほど治りにくいもの

なので、小さいうちからこうして目に見える改善をすすめていくことが体をつくる上で重要だということを親や教師が補助して「食べ方の大切さ」を教えていくことはとても大切だと思う。